

2022年1月14日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

2021年度日本PR大賞が決定

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

根本 かおる氏

(国連広報センター所長)

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

COVID-19 多言語支援プロジェクト

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：畔柳一典）はこのほど、2021年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に“国連広報センター所長の根本 かおる氏”を、日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に“COVID-19 多言語支援プロジェクト”をそれぞれ選出、表彰することを決定いたしました。

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」としてパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には、長年にわたり企業や市井で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域あるいは団体の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人または組織を、それぞれ表彰するものです。

1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

また、1月20日（木）開催の「新春PRフォーラム2022」（主催：日本パブリックリレーションズ協会）において本年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」各賞をご紹介します、受賞者の皆様からメッセージをいただく予定です。

なお、両賞の選考・授賞理由については次頁をご覧ください。

日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 根本 かおる氏 国連広報センター所長

■授賞理由

国連広報センターは、2015年の国連サミットで採択されて以来、持続可能な開発目標 (SDGs) の日本における普及広報活動をさまざまなステークホルダーやオピニオンリーダーを巻き込んで展開し、SDGsの重要性についての認識を高めている。根本氏は同センターの所長として広報活動全般のディレクションを行うとともに、自らメディアや講演会などに登場してダイレクトにSDGsの重要性を訴求している。目標年となる2030年までの「行動の10年」という新たなフェーズに入り、社会の仕組みレベルの変革が急がれる中、根本氏が率いる国連広報センターがSDGsの達成に向けての大きなムーブメントをつくることの期待を込めて、根本氏を2021年度のPRパーソン・オブ・ザ・イヤーとして選定する。



■プロフィール

東京大学法学部卒。テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。WFP 国連世界食糧計画広報官、国連 UNHCR 協会事務局長も歴任。フリー・ジャーナリストを経て2013年8月より現職。2016年より日本政府が開催する「持続可能な開発目標 (SDGs) 推進円卓会議」の構成員を務める。著書に『難民鎖国ニッポンのゆくえ - 日本で生きる難民と支える人々の姿を追って』(ポプラ新書) 他。

日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 COVID-19 多言語支援プロジェクト

■授賞理由

COVID-19 発生以来、自国に戻ることでできない多くの在日外国人がコミュニケーションの不安を抱えている中で、多言語支援という課題に対して迅速に対応し、継続的に支援を行っている姿勢がシチズン・オブ・ザ・イヤーとしてふさわしい。



■活動内容

COVID-19 多言語支援プロジェクトは、新型コロナウイルスに関する情報を多言語で発信するボランティアグループです。2020年4月、東京外国語大学の学生と卒業生を中心に発足し、現在は約60名で活動中です。

私たちが運営するウェブサイトでは、15の言語で記事を読むことができます。体調が悪いときの相談窓口、在留資格に関する情報など、日本語がわからない人にも届けたい内容です。それぞれの記事は政府や自治体などからの信頼できる情報をもとに執筆され、各言語に翻訳されます。さらにチェック専門の担当者が、誤りがないかを確認後、記事が投稿されます。

Instagramでは日本人向けに多言語支援、多文化共生について発信しています。参加者のインタビューでは、活動の様子や翻訳に込める思いなどを知っていただけます。多言語での発信があたりまえな社会に変えていくきっかけになればと思っています。

■日本PR大賞とは

日本PR大賞は、日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）の公益事業として、パブリックリレーションズの普及・浸透のために、「企業と社会の共生」、「公益の実現」などに貢献した人・組織を表彰する制度である。

日本PR大賞は、PRSJが毎年選考する「パーソン・オブ・ザ・イヤー」と「シチズン・オブ・ザ・イヤー」からなる賞である。それぞれの定義は以下の通り。

◇ 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー

経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人を選考し、表彰する制度である。

◇ 日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー

長年にわたり企業や市井で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域あるいは団体の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループを対象とし、選考し、表彰する制度である。

■選考方法

日本パブリックリレーションズ協会会員および一般から受賞候補者・団体の推薦を募り、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」・「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを顕彰委員会で決定。

候補者リストに基づき、当協会会員と外部有識者による投票を行い、その投票結果を踏まえて顕彰委員会内で最終決定する。

■推薦基準

◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最もPRパーソンとして活躍した人

※推薦条件

- ・過去1年間で日本の社会に対し、ポジティブなムーブメントを創出した人

◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

長年にわたり企業や市井で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域あるいは団体の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）

■ **パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者**（※肩書は受賞当時のもの）

令和3年度（2020年度）

池江璃花子氏（競泳選手）

令和2年度（2019年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成30年度（2018年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成29年度（2017年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成28年度（2016年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成27年度（2015年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成26年度（2014年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成25年度（2013年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成24年度（2012年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成23年度（2011年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成22年度（2010年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成21年度（2009年度）（この年までは「日本PR大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成20年度（2008年度）

該当者なし

平成 19 年度 (2007 年度)

東国原 英夫氏 (宮崎県知事)

平成 18 年度 (2006 年度)

川島 隆太氏 (東北大学 加齢医学研究所教授)

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油PR協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 COO)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏 (株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長)

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI (元大関小錦・タレント)

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏（宇宙飛行士・医師）

特別賞 猪狩 誠也氏（東京経済大学 教授）

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和3年度（2020年度）

一般社団法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」

令和2年度（2019年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成29年度（2018年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成29年度（2017年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成28年度（2016年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成27年度（2015年度）

いすみ鉄道株式会社

平成26年度（2014年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成25年度（2013年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成24年度（2012年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147